

2023.7.13 (木)
クラブ協議会

2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2023-2024 年度
国際ロータリーデー



世界に希望を生み出そう
2023-2024 年度
RI会長 ゴードン R. マックナリー
第2500地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (釧路港 RC)

ガバナー意見交換会

お客様紹介と会長挨拶 後藤 公貴会長



本日ご来訪いただいておりますロータリアンの皆さまをご紹介させていただきます。国際ロータリー第2500地区ガバナー・鶴見誠一郎君。同じく第7分区ガバナー補佐・佐渡正幸君。同じく第2500地区副幹事・富井孝治君。同じく第2500地区第7分区ガバナー補佐幹事・篠原恒也君。同じく第7分区ガバナー補佐幹事・荒木潤一君。以上の皆さままでございます。本日この意見交換会、後ほど例会で大変お世話になります。よろしくお願い申し上げます。

続いて、ご挨拶をさせていただきます。

本日は午前中の大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

改めまして、鶴見ガバナー、そして佐渡ガバナー補佐、ご来訪いただきまして誠にありがとうございます。後ほどのご講話を含めよろしくお願い申し上げます。

先ほど、10時より鶴見ガバナーと、昨日は宴席をご一緒させていただきましたけれどもロータリーについて語りを深くさせていただきました。ご存じのとおり今週が初めての『公式訪問』ということで、第7分区よりスタートしております。これまで5つのクラブをご来訪されて、私を含めてですけれどもまだまだ緊張感のある中で大変良いお話を聞かせていただきました。

本日は、お集まりの本年度理事・役員の方々には、『地区協議会』とわれわれクラブ、そしてロータリア

ンとの距離を縮めていただく時間を共有させていただきたいと思っております。

私も若いですが、鶴見ガバナーも若い。私たち同世代としてこれからのロータリーの活動をしっかりと未来を見据えた中で皆さまと共有させていただき、そのような大切な時間になればと思っております。

本日は皆さまの忌憚のないご意見をいただいた中で、ともに学びを深くする時間にいたしましょう。

本日より、よろしくお願いいたします。

国際ロータリー第2500地区

鶴見 誠一郎ガバナー



釧路ロータリークラブの皆さまおはようございます。例年は『公式訪問』の時に『クラブ協議会』を行っていただいていた訳ですけども、私としましては、公式訪問例会の時にお話させていただき内容は、あくまでも「RI会長の方針」、「RI全体の方針」また『理事会』『規定審議会』それらすべてを肯定した話として皆さまにお知らせするという任務をいただいております。しかし、その世界レベル、あとは非常に大きなスケールでお話をした時に、果たしてそれらすべてが当地区にとって順応できるかどうかも踏まえまして、ある程度、表現が悪いですが腹を割って会員の皆さまと距離を縮めた状況で話ができればと考えまして、本年度からこのような『意見交換会』を開催させていただき運びとなりました。

また『クラブ協議会』を前年度のうちに終わらせていただいた件につきましては、公式訪問の講話の中で、

改めて皆さまにお示ししたいと思っております。

本日、限られた時間ですけれども、有意義な内容としていきますように皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

国際ロータリー第 2500 地区第 7 分區

佐渡 正幸ガバナー補佐

釧路ロータリークラブの皆さま、おはようございます。改めまして第 7 分區本年度ガバナー補佐の佐渡です。



本日は、『ガバナーとの意見交換会』、そして『公式訪問例会』ということで、後藤会長、佐藤幹事をはじめ、クラブメンバーの皆さま、ご準備、そして設えをいただきまして誠にありがとうございます。

月曜日に音別から『公式訪問』が始まりまして、今日で 5 クラブ目ということです。ガバナーからもお話がありましたとおり、本年度は『クラブ協議会』を前年度に私が主導した中で開催をさせていただきました。この『意見交換会』も初の試みということです。終わった各クラブの中では、メンバーの皆さまとガバナーがより近い形で意見交換をしたという、素晴らしい成果が挙がっていると思います。

いままでであれば、どちらかと言えばガバナーから下りてきた部分を受け止めて、それぞれのクラブが活動をしている形でしたが、今日は実際に意見交換をした中で、より親身にロータリーのこと、クラブのことを語っていただいた中で、今年 2023-2024 年度の釧路ロータリークラブの更なる発展、そして貴クラブにはこれから 90 周年・100 周年と歴史を積み上げていく、その一歩の年度と思っていますので、今日は皆さま忌憚のない意見をいただいて、素晴らしい意義ある 1 日にさせていただきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

『ガバナー意見交換会』

クラブ運営委員会 得地 哉委員長

クラブ運営委員会委員長の得地哉と申します。よろしくよろしくお願いいたします。

クラブ運営委員会は、出席委員会・親睦活動委員会・プログラム委員会で構成していますが、今後の例会プログラムの策定の参考にさせていただきたいので、所属クラブのものでも、所属以外のものでもどちらでも結構ですが、いままでのロータリー歴の中で思い出に残った例会プログラムをいくつかお教えいただければと思いますよろしくお願いいたします。

鶴見 誠一郎ガバナー

ありがとうございます。私の中で、一般的にというかスタンダードな例会、通常プログラムを行って、お食事をしてという例会以外に思い出深い「ほー」と思った例会、このような例会もあるのだと思った例会が 4 つあります。

1 つは、当地区の例会ではなく、他の地区へメイクアップに行った時です。食事がすごく質素な精進料理が出てきた例会があります。その名も『質素例会』と命名をしておりました。食べられる物がほとんどありませんでした。特に味もない。水気もない物を食事の時間に皆さまに「召しあがってください」と。これはどのように食べればよいのだろう。つまむのだろうかというような精進料理。ゲストながらも生意気に例会のプログラムに入る前に、壇上で「その目的は何なのですか」と聞きました。

「世界の中には貧しくて食事もろくに取られない人たちがたくさんいます。その気持ちを経験しなさい。それを今後の方針につないでいきなさい」ということを目的として『質素例会』、精進料理のような物を、これは本当に食べられるのだろうかと思うような食事の提供があった例会があります。

2 つ目の例会は、『職場訪問例会』の中で、産業廃棄施設で食事を取っての例会を行ったことがあります。非常に複雑な心境でした。特にホコリ・粉塵のような物も舞っていました。あとは臭いなども出ていた中でです。ただ、それは『職場訪問例会』だから出席させていただいたことでもあります。いま考えてみたら先ほどの話と似たようなことで、そのような環境で食事をしないといけない人たちが世界にたくさんいると思ひまして、そこも先ほどの『質素例会』と相通じるものがあると思っております。

3 つ目は、『ナイトクルーズ』例会です。これは少し贅沢になりますけれども、現実を飛び越えて特別な環境で、特別な思いを抱きながら例会をすると、感動があったり感激があったりで、通常例会に色を付けるというか驚き・サプライズを与えることもまた例会を開くときの楽しみだと思ひます。

あとは、少しきれいごとかもしれませんが、『家族例会』というのはどこかで行った方が良かったと思っております。もちろん私どもが日頃支えていただいている家族への感謝も含め、また楽しんでもらうこと、また雰囲気は例会そのものがほのぼのしていて、小さい赤ちゃんから幼少時期の子どもさんたち、またご高齢の方まで、いろいろな年齢層の方が出席をさせていただくバラエティに富んだすごく温かい雰囲気の例会というものが感じられました。

私の中でいま、思い出に残っている、インパクトがあった、また印象にまだ残っている例会はこのような感じ

になっております。

クラブ広報・会員組織委員会 横田 英喜委員長



クラブ広報・会員組織委員会委員長の横田です。よろしくお願ひいたします。釧路クラブでは、コロナ禍においても例会をできるだけリアル

ルに開催することによって会員間の親交を深めてロータリーの魅力を感じてもらってきております。

また、会員の拡大についても地道に、実際に入会の候補者に対して足を運んで会員の維持、会員増強を行ってきました。その結果として、釧路ロータリークラブの歴史と伝統をつないでいるものと考えております。地域における人口減少がある中で、ロータリークラブのあり方にも変化が必要であることは認識しておりますが、安易な拡大は弊害があるとも感じております。鶴見ガバナーの地区活動方針では「ロータリーの魅力を伝え、会員増強や新クラブ設立に積極的に取り組もう」とあります。ガバナーの考える会員増強のあるべき姿、新クラブの設立に関してR Iの動き、ガバナー自身の考えがありましたらお聞かせ願ひます。

以上となります。

鶴見 誠一郎ガバナー



ありがとうございます。実は私に事前に質問をいただいていた訳ですけれども、あまり原稿を準備しないでまいりました。それだと、形式的なお話になってしまったり、作られたような回答になってしまうので、あえてそのような原稿は作って

きていません。

いまお話をいただきました「ロータリーについては誰でもいいのか」と。では、「ロータリーに入会するステータスはどこにある」「本来は、選ばれし者が入会できるのではないか」という意見もあります。先ほど『会長・幹事懇談会』の中でも触れさせていただいた内容の中で、これはガバナーという立場よりもひとりの人間としてお話をさせていただきます。

私どもの地区で前年度に1クラブが終結しております。ですから、久木年度のスタートまでは66クラブありましたけれども、今年度は65クラブからのスタートになります。いろいろな事情もあって終結をしなければならない、もしくは終結を避けられなかった所があります。とすると、「やはり、クラブの火を消すわ

けにはいかない」というところがあります。どうしても火を消してしまう、消さなければいけない状況なのであれば、また他の方法で火を灯すことも考えないといけないと思っております。

ただ無作為に会員増強、会員増強と言っている訳でもなく、もちろんある程度の社会的地位をお持ちの方、また協調性がないと。団体・組織の一員ですからひとり歩きが強いお方は、なかなかお誘いするのはどうかと思います。

そこで、R Iの考え方を申し上げますと、組織を維持していくためには、人員がどうしても必要になってまいります。そこはどうしても表裏的にイメージ的にはグレーゾーンの話になると思います。当然、「会員増強をなさい、してください」という話は飛び交いますが、「人選についてはクラブの判断と責任を持って遂行してください」となっていると思います。

私の方でいままで、皆さまにお示しした資料の中で会員増強に触れていることがいくつもあります。その中でも、考えているだけでは先に進まない。あまり人選も選びすぎるとなかなか増えないし、進まないし、停滞してしまうところがあります。

多分、皆さまもご経験があると思いますけれども、この人はすごく良い人だから絶対に入会してほしいという方がいたとして、実際に入会をしていただけたけれども何らかの理由ですぐに辞めてしまったこともあると思います。その反対、言い方は申し訳ないですけれども、あまり期待しなかった人が入会をして、すごくクラブに貢献してくれていることもあると思います。そこは少し発想を切り替えて行動をしてみないと分からないところがあります。ですから、スタンスとしては、気持ちを切り替えていただければと思うところは、「誰でもいい人」をただ単に増やせば良いということは一且切り離していただき、とりあえず自分たち、もしくは自分が「この人は適任ではないか」と一瞬でも直感でも思ったところは、ご自身を信じてまずお誘いいただきたいと思っております。

そこから先のことを心配してしまうと進まない部分もありますので、まずは行動をしてから考えることも1つの方法として。まったく考えないで突き進むことも危険なことですが、そこは皆さま、大変優秀な経営者の皆さまですし、社会的経験もよくお持ちだと思いますので。そこは職員さんを採用する時にもいろいろな直感や感じ方で採用したり採用しなかったりもあるとは思いますが。そこと似たような感覚があるとは思いますが、まずは「誰でもいいか」を切り離していただき、まずはお誘いいただくことを前面にスタートしていただきたいと思っております。

少し話が長くなりましたけれども、ぜひご検討いただければと思います。よろしくお願ひします。

奉仕プロジェクト委員会 磐田 信一委員長

奉仕プロジェクト委員会委員長の磐田です。よろしくお願いたします。



当クラブでは青少年の健全育成と親

睦・交流を目的に『全道中学親善硬式野球大会』と『釧路ロータリー杯アイスホッケー大会』を青少年の育成事業として継続しています。

全道中学親善硬式野球大会は、2009年度より釧路ロータリークラブの主管で大会を創設し、2014年度からは第7分区の主催による分区事業として現在も継続しています。

また、釧路ロータリー杯アイスホッケー大会は、高校生を主体に当クラブを代表する事業として30年間続いている継続事業です。

そのような事業が2500地区や他の地区にもあるのでしょうか。そのような事業があった場合、事業がどのような形で昇華して行ったか。また、ロータリーとは違う団体に運営を任せていたり、地域の欠かせない大会になっているなどの事例はあるのでしょうか。よろしくお願いたします。

鶴見 誠一郎ガバナー

ありがとうございます。いまのご質問の内容は大きく分けて3つあると思っております。

1つは、長年、何年も行っている事業ということですが、まだ私の公式訪問は始まったばかりで、皆さまと接している回数も少なく、また情報が不足していますけれども、私が身近に感じている、もしくは身近に分かっている、把握している長年行っている事業としては、『青少年の交換留学』がもう30年以上も続いている所、特に紋別ロータリーなどは、その類いではないかと思っております。

他に、ロータリーとしての事業であるのか、もしくは地域が元々行っていたものにロータリーが協賛して、助っ人としてお手伝いをしている事業なのかが微妙な事業もあります。

他の地区にもどのようなことがあるのか、調査不足・リサーチ不足もありますが、私が存じ上げていることは、間接的な事業になりますけれども青森の『ねぶたまつり』です。間接的な部分でロータリーが相当力を入れて協力していると聞いております。徳島の『阿波踊り』もいままでロータリーが相当協賛・協力してきたというのがあります。ただ、あれをロータリーのひとつの事業にという無理があります。公的なイメージもありますので、そこが難しいところなのかと感じております。

従いまして、ロータリーが行っている長年の事業として私が把握しているものという交換留学生を受け入れ、また当地区から送り出している事業になります。

あとは、質問から外れてしまうけれども、長年行っている事業がもしあった場合に、やっぱり帰ってくるものがあつたらいいなと思います。決して見返りを求めている訳ではなく、先ほどの『会長・幹事懇談会』でもありましたけれども、釧路ロータリーが青少年育成事業を何十年も行われている中で、例えば、釧路ロータリーがお世話をした青少年がいずれ大人になって立派な経営者になって、釧路へ戻ってきた時に釧路ロータリーに入会していただくなどスパイラルになっているといいなと思ったりします。ですからこの奉仕事業が少し難しいと感じるところは、やっぱり一方通行になりがち。一方通行が奉仕だという考えもありますが、そこはどこかで地域に跳ね返ってくるような奉仕だといいなと思ったりもします。

ずっと奉仕し続けることもいいのですが、人って、「これだけやって上げて、何も返って来ないとちょっと寂しい」という、最初は見返りを求めていないですけども見返りのものを求めてしまう一面もあたりするのです。奉仕事業として青少年育成事業で協力をしたら、いずれ釧路に貢献していただけるような人になって戻ってきてくれて、ロータリーに入会してくれるようなことを自分の中で期待していたりします。

あとは、地域に欠かせない大会、というよりは事業を考えています。大会というと少年野球のことなど、活躍できる大会が最近では少なくなってきています。ですから少年野球もそうですけれども、何のために練習をしているかに話を戻すと、活躍できる場や大勢の人の前でプレーできる場を提供してあげたいと思っています。

あとは、地域に欠かせない大会ではなく事業としては、テレビで見ているよりも非常に貧困のご家庭が深刻です。私もいろいろNPO法人の方と親しくさせていただいて現状を把握していますけれども、テレビで拝見するよりも深刻化していると感じる時があります。従いまして、今日生きる・明日生きるという話までは行かないですけども、本当に食べたいものも食べられない、勉強をしたくてもなかなかできないという部分で、私の周囲で実践している事業としては、『子ども食堂』をしながら学習会を行うもの。ウチの地区でも行っているクラブや分区もあると思えますけれども、そこはこれから重要な位置付けが必要になってくるのではないかと思います。話がそれて申し訳ありません。私はいまそのように思っております。

ロータリー財団・奨学推進委員会 池田 一己委員長

ロータリー財団・奨学推進委員会委員長の池田と申します。どうぞよろしくお願いたします。本日はお時間をいただきましてありがとうございます。



私たちの委員会は、ロータリー財団・寄付推進委員会と米山記念奨学会委員会、それと当クラブ固有の嵯峨記念育英会委員会の3委員会で成り立っております。それぞれ理念を持って長く永続している委員会ですけれども、ガバナー方針から「私たちはロータリアン」という確固として保持をしていく姿勢というのが何度も記されている一方で、「変化すべき」や「変わる必要」という変革も何度も記されていました。私たちのような財団や各種の基金の理念は、設立からもう確立しているものです。鶴見ガバナーの理想とされるロータリアンとしての変化はどのようなものなのか。お考えを聞かせていただければと思います。

どうぞよろしくお願いたします。

鶴見 誠一郎ガバナー

ありがとうございます。そうです、「われわれはロータリアンです」を連呼させていただいています。「私たちこそロータリアンです」ということも謳わせていただきました。

やはり、私がいろいろな方と話をし接している中で、当然、親睦と友情は非常に重要であると考えております。ただその反面、例えばですが例会の食事の中で、奉仕についてのお話はあまり出てこないですよ。お食事をされて親睦と友情を深める話はしておられます。例会にいる時、プログラムの中で、奉仕についてのレクチャーや講話はあると思いますけれども、会員の中で、例会中のお食事も含めて奉仕についての話はほとんど聞かないですよ。元々、われわれはロータリーソングも含めて「そこに集いし友よ」という歌詞もあります。奉仕の理想があって、としたときに奉仕というものの割合をもう少し増やしても良いのではないかと考えています。いろいろな方と話をすると、公式訪問の例会のスライドでも盛り込ませていただいていますけれども、「寄付は志だから強制されるものではないよね」「ロータリー財団はまたお金集めをしている」という声意外と多いのです。でも、われわれロータリーとして奉仕を掲げて、その組織に入会している以上、お金という目的ではなくて「では、実際に奉仕をしてみましょうよ」と言っても、実際に現地へ行って奉仕事業ができる人はほとんどいないですね。

限られた人しか行けない、できない。そうすると、どのようにわれわれはロータリアンとして支援をして行けばいいのかということ、最終的にはお金の話になってしまいますが、直接的に奉仕できないのであれば、直接的に奉仕をできる人たちに託して後方支援で支援をしましょうよ、協力をしましょうよ、と頭を切り換えていただきたいと思います。

あとは、ロータリアンとしての奉仕の理想があって、ロータリアンとしての資質ということも謳われてきましたけれども、いままではそれで良かったと思います。でも世界情勢が変化してきて、社会情勢が変化してきて、自分たちが「こうしたい」と言っても世界と経済と地域がそのようにさせてくれないことになると、われわれも変化して適応して行かなければいけない、発想を転換しないといけないところがあって、まずはロータリアンとしての変化なので、今までの発想や古き良き伝統はそのままで良いと思います。が、ロータリアンも変わる世界、またその情勢に順応できるように変わっていただきたいという意味合いで、私は示したつもりであります。

木下 正明会計

本年度、クラブ会計・理事の木下です。たまたま地区幹事をやったことがあるということのみで質問をさせていただきたいと思います。



当釧路クラブも100人を超えるクラブでして、定期的にガバナーの輩出をできたら、要するに地区に貢献できたらと皆さん思われていると思います。調べますと、だいたい10年ぐらいで半分近くの会員が入れ替わることが現状です。それで、いまここにいる会員も地区の運営になかなか近しくない方が多いと思います。地区としては年間のスケジュールが決まっています、いろいろな事業を積極的にされていることが地区幹事をやった者としてはよく分かりますが、鶴見ガバナーには、なかなか地区との接点がない各クラブの会員にどのようなところを一番理解していただきながら地区の運営を進めて行くお考えかをいろいろな観点でお示しをいただければありがたいと思います。

以上でございます。

鶴見 誠一郎ガバナー

すごく広いお話ですね。今後の地区の運営を考えたときに、私の単年度だけでは、中長期のビジョンを考えても「きっかけづくり」しかできない気もしています。私が考えたこと、想像したこと、希望したことを、今後の小谷エレクト、佐渡ノミニと情報を共有しな

がら、「そこは良いと思う」「いやそこは良くないと思う」「そこはこうした方が良いと思う」というような協議・検討が必要になっていくと思います。

先ほど『会長・幹事会』でもお伝えしました。先ほどご質問をいただいた中でも話しましたが、ウチの地区でちょっと終結が懸念されるクラブはやっぱりあります。それはまず人口の減少が一番根底にあります。もちろん会員の皆さんの高齢化や体調不安、いろいろな事情もあって、言い方が悪くなりますけれども終結予備軍と思われるクラブが少しだけあります。そうした時に、黙ってでは終結を迎えてしまうだろうと思っております。

そこで、終結をただ見ているだけではなくて、できるだけ終結しないように、もちろん会員増強も必要ですけれども、増強だけではどうなのだろうという部分があります。ある程度、前を向きながら後ろをたまには見たり、地区としても終結しないようにできるだけアンテナを張り巡らせて、クラブの状況を把握して終結しないように、また、どうしても終結がやむを得ないのであれば、新たな生まれ変わりの方法がないのかを探っていく必要があるのかと思っています。

例えばですけれども、1つの成功例として釧路北さんのサテライトクラブさんなどのケースも考えています。ですから会員増強もしつつ、新クラブの創立については、「クラブの火を消さないように」「消えてしまうのであれば、新たな火を灯そうよ」という感じで考えております。

いままでは何となく、クラブ・分区・地区に距離感があったのと垣根があったと感じております。いままでが悪かったという否定ではありませんので、そこは勘違いをしないでください。これは私が思う構想ですけど、クラブの集合体が分区であり、分区の集合体が地区だと思っています。

そうした時に、なぜここは情報共有をしないのだろう、情報共有をすべきだと思っています。情報共有をして地区からも発信をして、発信をしたものを一方通行ではなく、発信をしたものへの反応もクラブからいただいて、今後は情報のキャッチボールが必要になっていくと思っています。

そうすると、互いに健康診断をし合うみたいにクラブの状況等を把握できれば良いと思っています。

あとは、クラブの独自性というものがよく謳われますけれども、クラブ単体で何かをしようとするとうちでもリスクが大きくなるので、例えば、1つの事業を行うときに分区のみんなで行うとか、最終的には地区全体で地区事業としてクラブに協力を求めるのか。そのように1人ではなく2人。2人ではなく3人と、どんどん人を多くして協力し合っていくことが意外と近道で、おまけに1つの事業のスケールが大きくなって実行できると思っています。今後の地区の運営の

仕方については、自分の中でそのような気持ち、ビジョンをいま抱いております。

吉田 潤司パストガバナー



私もガバナーをやりました時に、会員増強ばかりを言った記憶があります。それでも、回りました時に、10クラブぐらいから「ガバナー

は会員増強と言うけれどクラブを魅力的にするのが先ではないか」と言われて、その時は一刀両断に切り付けて、「そのようなことを言っても永久に魅力あるクラブなんてできるはずない。まずは増強が先じゃないか」と言いました。最近、考えてみますとやっぱり魅力あるクラブ・憧れるクラブをつくる努力はすごく必要だと思っています。

簡単に釧路クラブにどうか、皆さんに「このようなことが必要ではないか」というポイントか2ポイントのアドバイスをいただければと思います。ガバナーのお考えも聞きたいと思っています。

鶴見 誠一郎ガバナー

とても重い話の内容をありがとうございます。

そうなのです。やはり魅力あるクラブづくりが非常に重要だと思っています。



それが会員増強につながりますけれども、まずは会員を維持することになります。私が先日、10ページほどの資料を作らせていただき、全クラブに展開したものの中に、アイドルのファンクラブについての例を挙げさせていただきました。

ウチの娘もファンクラブに入っていたりします。ファンクラブはどうしてあのように人数をキープできて、退会者があまりなく、ファンが増え続けているのかを考えたことがあります。やっぱり魅力があるからと、ファンの心を掴んで離さないのをロータリーに当てはめたらどうなのだろうと考えております。やはり、魅力あるクラブづくりをどうしていくべきなのか。また入会したくなるようなロータリーの情報の発信の仕方をどのようにしたら良いのかを考えていく必要があると思っています。

私が聞いている成功例として、千葉県の成田山で『ポリオ撲滅キャンペーン』のイベントを行った地区があります。大胆な内容でした。通行人みんなにポリオの赤いTシャツを配って、とりあえず「着てください」。

「何ですか」に「これは・・・」と言って説明をしていく。そうした中で、全然ロータリーのことを知らなかった、関係なかった人たちが「ロータリーに入会したいと思っているのですけれども、どのようなお手続きを踏んだらいいですか」と向こうから言ってきたそうです。魅力あるロータリーの情報の発信は、やはり感動や驚きなどを周囲に与えることで関心を持ってもらえるのかなと思っていたりもします。

これは、その地区、そのクラブさん、それぞれ違う方法になると思います。地域に合ったもの、クラブに合ったもの、という意味では同じ方法がいいとは全く思わないです。

従いまして、たまには少し大胆な方法を選択して、人目につく大きなイベント・行事も企画してみたら良いと思います。

単体のクラブでは難しい話になると思いますので、何クラブか、もしくは分区全体などで。そのひとつが10月24日の『ポリオデー』のイベントや『奉仕デー』などに、今回も私はローターアクトに考えてもらおうと思っています。

その中で、会員を維持することと会員増強を目的とする方法として、魅力あるロータリーの情報の発信の仕方を考えてもらいたいと思います。

あとは、私の話の中で腑に落ちないところもあると思います。『公式訪問』例会の時に私に頂戴する時間の中で、そのモヤッとしたところもお話をさせていただいて、少しでもクリアにしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

参考になったかどうかは分からないですけれども、少しでも私の考えや、資料でお示ししている内容が「そういうことだったのね」と分かっていたらとてもありがたいと思っています。

それと、まずは皆さまと定期的に情報を共有させていただきたいと思っています。定期的なヒヤリング

シートを展開させていただきまして、クラブの状況、また活動内容等を教えていただければ、また、地区としてなにか協力できることもあると思います。またお困りのことがもしあれば、協力して差し上げて、問題があったときには、一緒になって解決できるように務めさせていただきたいと思っていますので、どうぞ引き続きよろしくしたいと思います。

会長謝辞

まずは、ご参加の皆さま、大変お疲れ様でした。そして鶴見ガバナーには、初めての試みのこの『意見交換会』の中で、入念なご準備をされて、そして本日は私どもからの質問に対して懇切丁寧なご回答、またご説明を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

鶴見ガバナーには、これから残り60クラブでの『意見交換会』が催されると思います。クラブにとっても、そして地区にとっても、そしてわれわれ自身にとってもこの『意見交換会』が有意義な時間だったね。本当にためになったねと言われるような成果・結果を持って10月『地区大会』でお会いして、また鶴見ガバナーのお話をいただければと思っています。

この絆、またこの成果・結果が長年に亘って積み上がっていくことを生意気ながらご祈念を申し上げさせていただきまして、私の謝辞とさせていただきます。

この後『公式訪問』例会の中でも、地区の考え、そして鶴見ガバナーのお考えを聞く貴重な時間を与えていただけることに感謝を申し上げまして謝辞とさせていただきます。

まずは、引き続きよろしく願いいたします。